会　　議　　録

会議の名称	第８回特別支援ネットワーク協議会
事　務　局	小金井市教育委員会学校教育部指導室
開催日時	平成２４年２月７日（火）午後３時より午後５時まで
開催場所	小金井市民会館　もえ木ホールＢ会議室
出　席　者 （２３名）	委　員　尾上　明彦（学校教育部長） 鈴木　遵矢（庶務課長） 前島　　賢（学務課長） 豊岡　弘敏（指導室長） 尾崎　充男（生涯学習課長） 堀池　浩二（障害福祉課長） 高橋　正恵（子育て支援課長） 小野　　朗（保育課長） 高橋　茂夫（児童青少年課長） 宗像隆一郎（市立小・中学校校長会代表） 坂口　昇平（小金井特別支援学校長） 渡邉　孝之（私立幼稚園協会代表） 道城まゆみ（ＰＴＡ連合会代表） 齊藤　　修（障害者就労支援センター所長） 村岡　輝一（障害者センター所長） 髙橋　　智（東京学芸大学教授） 平林　実枝（公募市民） 高橋　信子（公募市民） 小幡　美穂（公募市民） 臨時委員　山岸　祥子（ピノキオ幼児園保護者） 小野山直美（小金井第二小学校保護者） 小川　瑠美（通級指導学級Ｉ組保護者） 事務局　神田　恭司（指導室長補佐）
傍聴の可否	㊀　・　一部不可　・　不可
傍聴者数	５人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	１　あいさつ ２　協議 「平成２３年度の特別支援等の取組の成果と課題」 ３　事務連絡

主な発言 要旨	１　あいさつ（尾上部長） 　本日は、平成２３年度の特別支援等の取組の成果と課題を各課から報告するとともに、発達支援事業についての検討の進捗状況の報告をし、協議をしていただきます。皆様のご意見を頂きまして小金井市の発達支援事業を進めて行きたいと考えている。 　○委員の交代の紹介 　公募市民３人の紹介、企画政策課長の交代の紹介 ２　協議（議長は尾上部長） 　○平成２３年度の特別支援等の取組の成果と課題について ≪関係各課長からの成果と課題の報告≫ 　○発達支援事業について ≪小野課長≫ 　発達支援事業についてこれまでの検討経過の説明及び意見交換会の報告をした。 　○協議 ≪高橋信委員≫ 　通常の学級から特別支援学級へ移籍や就学する際、発達支援事業をもとに保護者も含め円滑にできるようにしたい。 ≪神田統括指導主事≫ 　ニーズに応じて支援をする必要がある。小金井市には特別支援学級として、知的障害固定学級と情緒障害及び言語、難聴の通級指導学級を設置している。 ≪前島学務課長≫ 在籍については就学支援委員会で、通級指導学級への入級は入級指導委員会で検討することになっている。発達支援事業とは連携する必要がある。 ≪高橋信委員≫ 　通常の学級に在籍していても、途中でつらくなり支援を受けたい子供も出てくるのではないか。 ≪神田統括指導主事≫ 　就学支援委員会の所見と異なる学級へ就学した場合は、継続相談を実施している。また校内委員会での検討や巡回相談を実施し、適正な就学先を検討している。 ≪高橋智委員≫ 　所管する部署は単独の「課・室」はできないか。障害を受け入れられない保護者もいる。障害福祉課が所管で理解してもらえるか。他市はどこが所管しているのか。 ≪小野課長≫ 　多くの時間を使って所管について検討してきた。その中で新たな部署の検討もしてきた。障害福祉課をパンフレット等には出さないようにする。また委託を検討している。

主な発言 要旨	清瀬市は障害福祉課、調布市は子ども家庭部などさまざまである。 ≪高橋智委員≫ 意見交換会で市民にオープンに議論して作っていくのは高い評価をする。小金井市としての目玉が欲しい。特別支援ネットワーク協議会の所管も含め検討する必要がある。 ≪渡邉委員≫ 巡回相談員の派遣を保育課で進めている。私立幼稚園は独自性があるが個々の幼稚園の話を聞く場を設定して欲しい。幼小一体、連携をしていきたい。 ≪小野課長≫ 今後一層幼稚園との連携を深めていきたいと考えている。巡回指導はすべての幼稚園での実施を考えている。 ≪尾上部長≫ こちらからお願いしていかねばならない。 ≪斎藤委員≫ 幼いころからの発掘が必要である。通常の学級にいる子供を支援していくことが必要である。 ≪神田統括指導主事≫ 各学校では気付きをもとに特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会で検討したり、巡回相談で支援を検討したりしている。 ≪豊岡指導室長≫ 平成１９年度以降変わってきている。特別支援教育が導入され関係機関と連携する等通常の学級の児童・生徒へも支援が行われてきている。 ≪斎藤委員≫ 様々な取組は、保護者に伝わっているか。 ≪豊岡指導室長≫ 十分ではないかもしれないが、様々な機会に伝えている。 ≪高橋智委員≫ 幼小連携は基本テーマである。特別支援教育を推進するに当たって公私の枠を超えていきたい。高校の問題が抜けている。都立、私立、どこへ進学していいかわからない場合もある。 ≪坂口特別支援学校長≫ 高校の特別支援教育は始まったばかりであり、現在進めているところである。学校レベルでしっかり進めていけば伸びていく。学校外の就学前や放課後、就学後など支援を受けていないところに力を入れていかねばならない。 障害者支援とするより発達支援とした方がよい。対象の子供にどのような困難があるのか。どのような支援が必要か。どこに重点を置くべきか。 ≪指導室長≫

主な発言 要旨	進学先の高校はさまざまである。都立高校もさまざまな形態の高校がつくられている。 ≪高橋信委員≫ 中学の進路指導を充実し、適切な接続が必要である。 ≪小川委員≫ 中三の子供がいるが、どこに進学させるべきか悩む。通級指導学級の先生を頼りにしている。 ≪豊岡指導室長≫ 進路指導の情報が少ない。特別支援学級だけでなく、一般的にそう言える。担任も３年たったら入試方法等が変わってしまう。進路指導は課題としてとらえている。東京都教育委員会とも連携して進めていく必要がある。 ≪高橋智委員≫ このような進路の相談が多く寄せられる。ピタッとしたものがない。相談機関やコンソーシャムのようなネットワークが必要である。 ≪村岡委員≫ 子供への支援だけでなく、ペアレントトレーニングの実施が大切である。 ≪小幡委員≫ 就学支援シートを就学相談や通級指導学級で配布してくれることに感謝する。学校へどのような方法でもっていったらいいか。就学支援委員会で固定学級判定が出て、通常の学級に就学した際、通級指導学級の支援を受けられないのか。 ≪前島学務課長≫ 就学支援シートは保護者が直接学校へもっていってくか、在籍校をとおして渡してもらうこともできる。 ≪神田統括指導主事≫ 小金井市は、特別支援学級の固定級は知的障害学級で通級指導学級は情緒障害及び言語、難聴の学級です。障害種別に応じた支援を行っている。 ≪高橋智委員≫ 保護者のニーズに合っていない。保護者と協議しながら進められるようにしたい。 ≪前島学務課長≫ 現在できることを行っている。 ≪道場委員≫ 特別支援学級に入って期待した支援が受けられず、がっかりしたと聞いたことがある。支援が必要な子供について教員の共通理解が必要である。 ≪指導室長≫ 平成１９年度から特別支援教育コーディネーターの指名や校内委員会の設置など教員間で情報共有が図られている。 指導室としては指導をしてきており、学校も一生懸命進め

主な発言 要旨	ようとしている。 ≪道場委員≫ 　関係機関が連携し、広く知って欲しい。相談の場も必要である。 ≪豊岡指導室長≫ 　スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣、巡回相談の実施など行っているが、さらに厚くしていかねばならない。 ≪尾上部長≫ 　皆様の意見を十分に組みいれながら事業を改善していきたいと考えます。本日は誠にありがとうございます。 　○所管変えについて ≪尾上部長≫ 　平成２４年４月から特別支援ネットワーク協議会の所管を「学校教育部指導室」から「福祉保健部障害福祉課」へ所管を変える。 ３　事務連絡 ①第９回は５月ごろの開催予定です。 ②車の方はカードに印を押すようにしてください。
提出資料	資料１　小金井市特別支援ネットワーク協議会委員名簿 資料２　開催時間希望調査結果（職名なしのもの） 資料３　第７回特別支援ネットワーク協議会会議録 資料４　平成２４年度の特別支援の取組について 「発達支援事業について」